

最優秀賞

神奈川県社会福祉協議会長賞

知ってみなきやわからない

厚木市立林中学校

三年 後藤 杏香

私の弟は特別支援学級に通っています。小学校と中学校にも特別支援学級はあり、通っている友人、クラスメイトもいて、そのクラスの掃除当番にもなったことがあるので支援級と無縁ではありませんでした。そこには脳に障がいがある子や、手足が不自由な子、どうして通っているのかなと感じる子。いろんな子がいました。不思議な子も多いけれど、みんな優しいんです。私もその子達と話すことが大好きでした。ですが、

「障がいがあつて通常学級に入れない子達に通っているクラス。」

「特別教室にトランポリンがあつた。私達は勉強しているのに。」

と、そのクラスに通っている子達を下に見たり、妬む気持ちも心のどこかにありました。

そして弟がそこに通うことになったと母親から聞いたとき、弟を羨ましく思いました。弟のことが少し嫌いにもなりました。

ある日の放課後、弟がリビングにプリントを持って走ってきました。

「なにそれ。」

と聞くと、

「しゅくだいやらなきや。」

と返ってきました。支援級の生徒も宿題が出されるんだと思いました。その時気づきました。私は支援級のことを何も知らないなど。支援級がどんなことを授業中に行っているのか、どんな場所なのかを少ししか知らず、支援級と支援級に通っている子に悪い印象を持っている事に気づいたのです。悩みながら一生懸命プリントに鉛筆を走らせる弟を見ると、自分がとても恥ずかしくなりました。

それから、母親に頼み支援級について教えてもらうことにしました。見せてもらった弟の時間割には「自立活動」という授業がありました。自立活動では児童の自立に向けて生活習慣や社会スキルを身につける授業で、運動や校外学習など様々な活動を行っています。例えば自分の気持ちを言葉に出して伝える練習や、校外学習では公共のルールやマナーを学んでいます。私が遊んでいると思っていたことは自立活動の一つであったと気づきました。それから、弟の時間割には通常級の音楽と支援級での音楽がありました。これは通常級での音楽は私達と同じように曲の鑑賞や楽器の練習などを行い、支援級での音楽は音を通して協調性

や周りの状況を理解する力を少人数で育むことを目的としている、などの違いがあります。支援級では少人数で苦手なことを重点的に行ったり、その生徒の良さを認め、伸ばし、活かす活動を行っていることがわかりました。

また、母親は支援級に通う子を持つ親の気持ちも教えてくれました。母親は友人や近所の人などの目が気になったと言っていました。特に、知り合いから支援級のことを「そんなところ」という言い方をされて傷ついたそうです。私も弟の癇癪や泣き声に苛ついて怒鳴ってしまったことがあります。子供の支援だけでなく、親やきょうだいに對しての支援も大切なんだとその時初めて気づきました。

私のように、支援級がどんな場所なのか、どんな活動をしているのかを知らずに支援級の生徒を下に見たり、怠けているなどと考える人もいます。そしてその気持ちは本人だけでなく、親やきょうだいの心も傷つけることがあります。私は今でも弟を羨ましいと思う気持ちはありますが、支援級で自分の得意なところを伸ばし、頑張っているんだと思うと自分も頑張ろうという気持ちにさせてくれます。私は支援級に通う本人や関わっている人以外の通常級の生徒や先生などにも支援級について、障がいについて知ってもらうことで私のように勘違いしている人たちが減り、支援級の生徒や家族の人たちが生きやすい世界になればいいと考えています。